

## 「高次脳機能障害」および「てんかん」対策に関するアンケート調査結果

### 1 アンケート実施概要

本県の「高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援施策」および「てんかん地域診療連携体制整備施策」の事業効果を測り、今後の施策の参考とするため、令和5年7月に県政モニターを対象にアンケート調査を実施した。

調査実施者	山梨県
調査対象・対象者数	山梨県県政モニター
調査方法	調査票郵送による配布、郵送およびWEB上での回答
アンケート回収数・回収率	回収数 355枚、回収率 79.1%

### 2 結果の概要

#### ①高次脳機能障害支援策関係

- 高次脳機能障害について、2割強が「知っている」と回答している。
- 地方紙の記事に当事者が取り挙げられたこともあり、情報入手先として「TV、ラジオ、新聞」が最も多かった。他方、これまで普及啓発事業として継続して行っている「リーフレットやホームページ」から情報を得ているとの回答は少なかった。
- 高次脳機能障害者支援センターを知っている県民は非常に少ない。
- 障害に気づいた場合の相談先は「退院前の医療機関」、「市町村相談窓口」など身近な機関である。

#### ②てんかん支援策関係

- てんかんについて、「発作は意識消失の他、見かけ上わからない発作もある」「慢性の脳の病気である」「適切な治療で発作をコントロールし、仕事の継続は可能」について知っている人は5割を超えるが、「高齢者の発症率が高いこと」「100人に1人の発症であること」など身近な疾病であることを知っている割合は1割強であった。
- 身近に患者がいる方の半数近くは困りごとがないと回答している。一方で、2割が「学校や職場での不適切な対応」を困り事として挙げている。
- 山梨県のてんかん治療診療拠点病院が山梨大学医学部附属病院であることを知る人は少ない。
- てんかんに関して求める情報は「最新治療等の医療情報」「発達障害や精神疾患に関すること」が多かった。

#### 資料内の記号等について

(SA) 単一回答 (Single Answer) の略。選択回答は1項目のみ。

(MA) 複数回答 (Multi Answer) の略。回答する選択肢の数に制限を設けている場合がある。

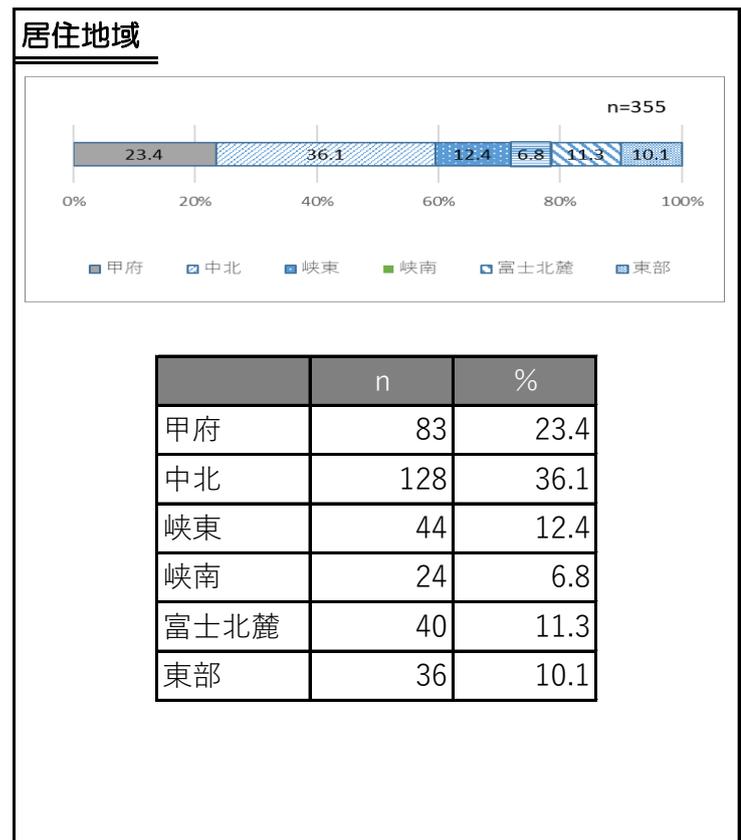
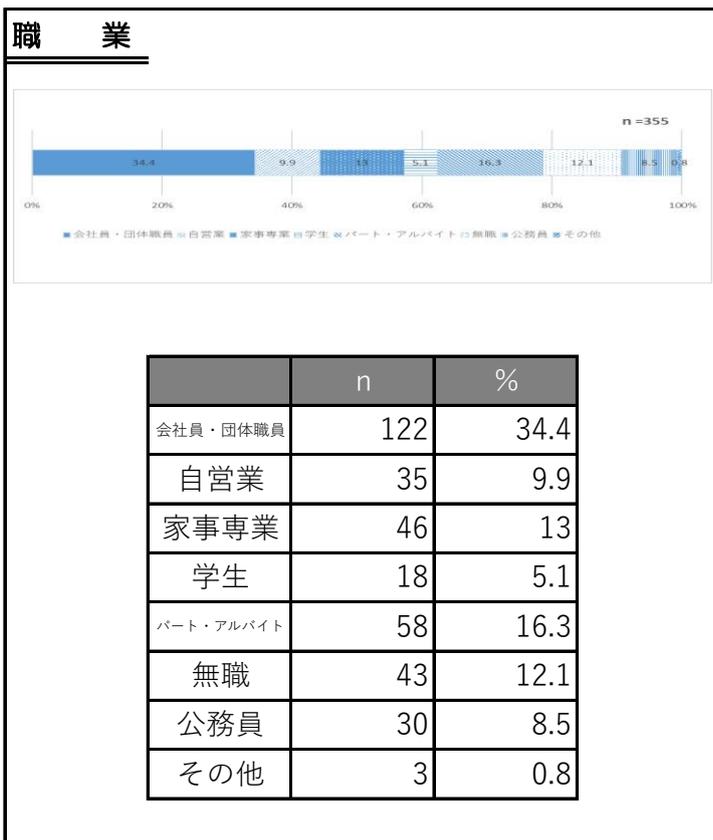
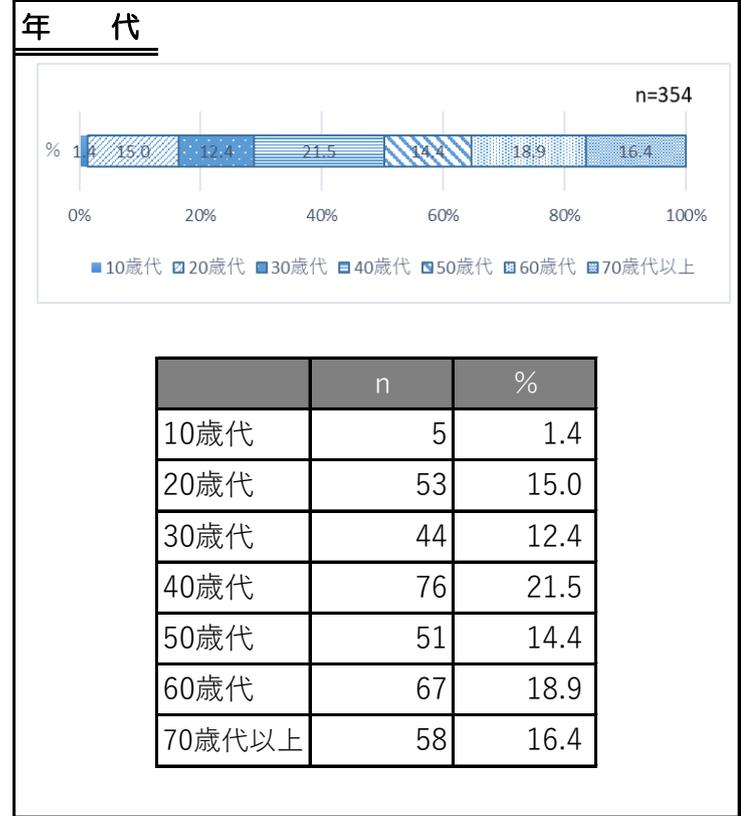
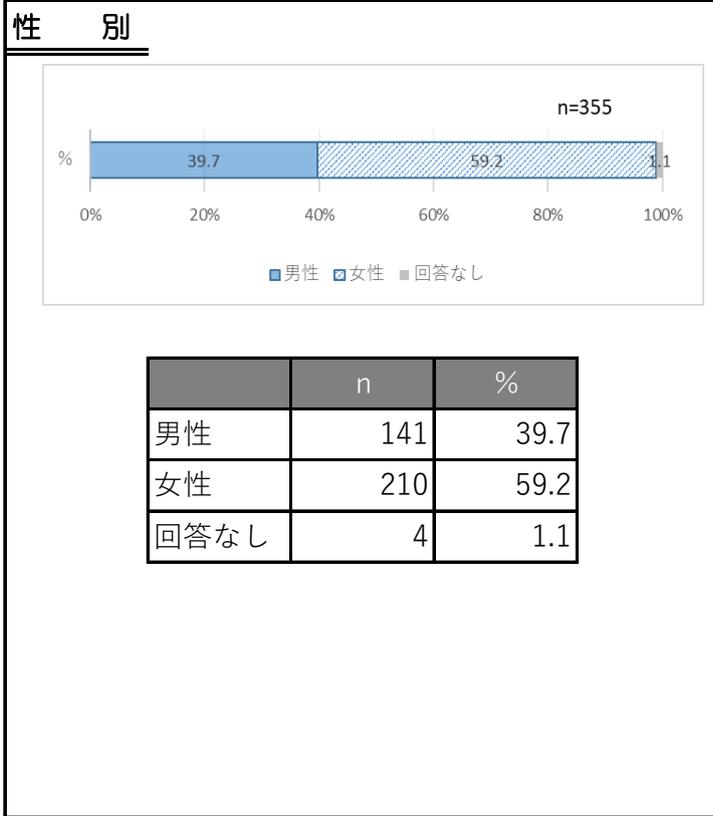
(FA) 自由回答 (Free Answer) の略。回答者の考え方を自由に記入するもの。

n 回答者数 (number) を表す。

※ アンケート結果の数値は小数点第2位以下を四捨五入しており、合計が100%にならない場合がある。

### 3 アンケート結果詳細

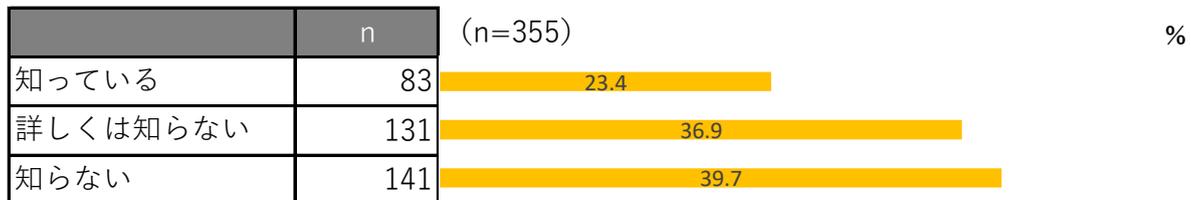
#### 回答者属性



①高次脳機能障害支援策関係

問1 これまで高次脳機能障害という障害を知っていましたか (SA)

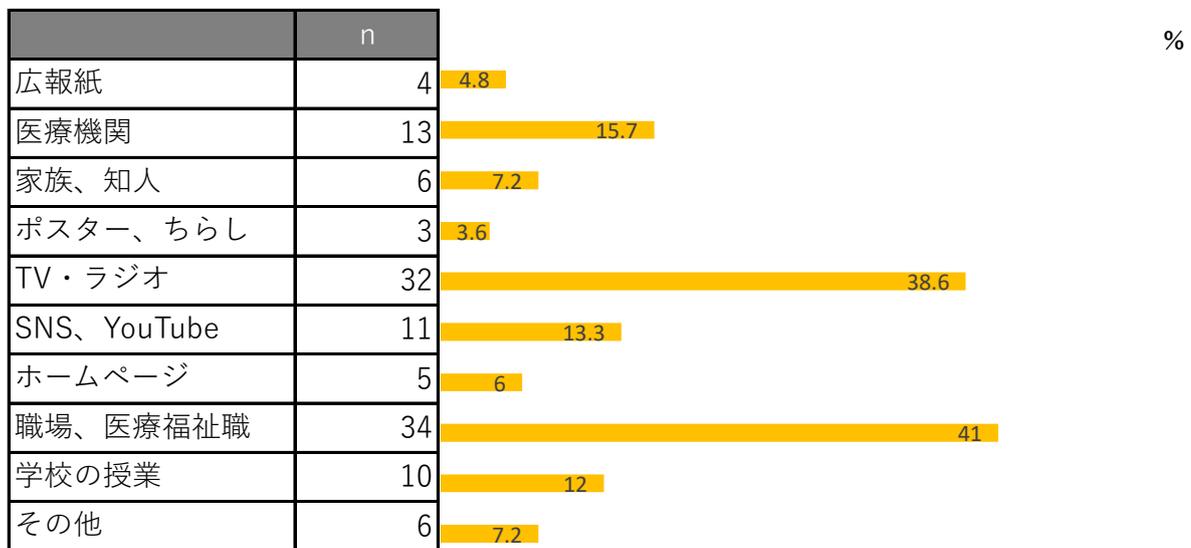
⇒ 全体の2割強は「知っている」と回答。



問2 どのような機会に高次脳機能障害について知りましたか (MA)

\*問1で「はい」と回答した方への質問

⇒ 「職場、医療福祉職」ついで「TV・ラジオ」からの情報提供が多い。



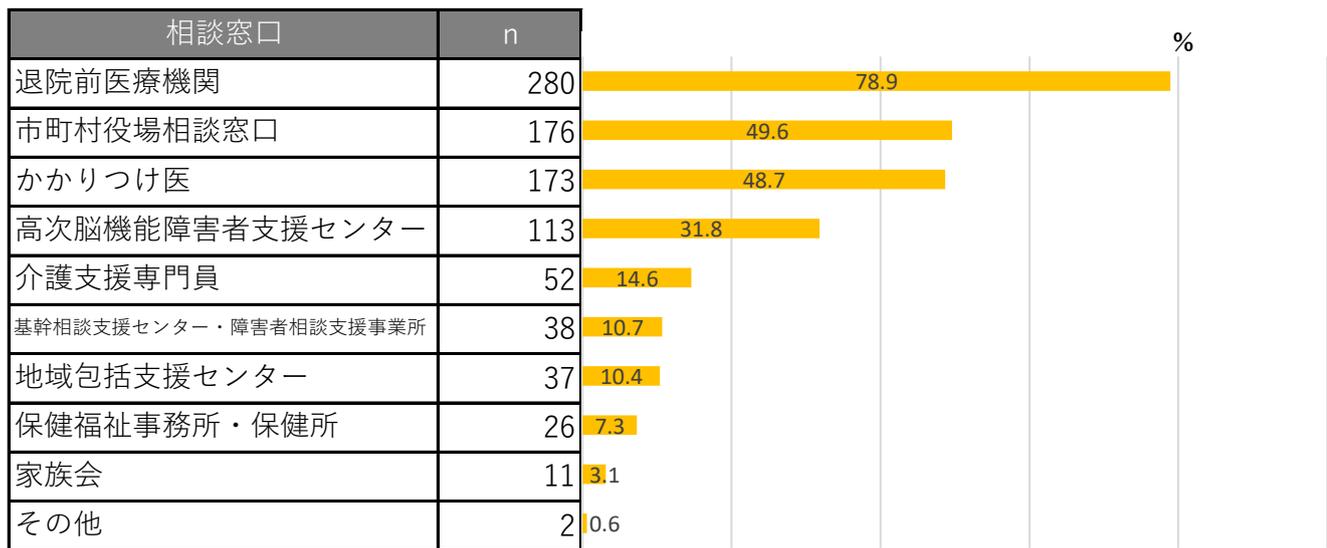
問3 あなたは、県内に高次脳機能障害者支援センターがあることを知っていましたか (SA)

⇒ センターがある峡東地区はやや高いが、県全体でセンターを知っていると回答した割合は7%。



問4 家族等親族に脳卒中や頭部のけがの治療が医療機関で終了後に、高次脳機能障害の症状により日常生活に困りごとが起きた場合、どこに相談にいきますか（MA3つ以内）

⇒ 相談先は医療機関が最も多い。次いで、市町村、かかりつけ医が相談先として挙がっている。



問5 高次脳機能障害者支援に関する自由記載

⇒ 障害に関する周知が必要という意見のほか、相談窓口の拡充を望む声も多く見られた。

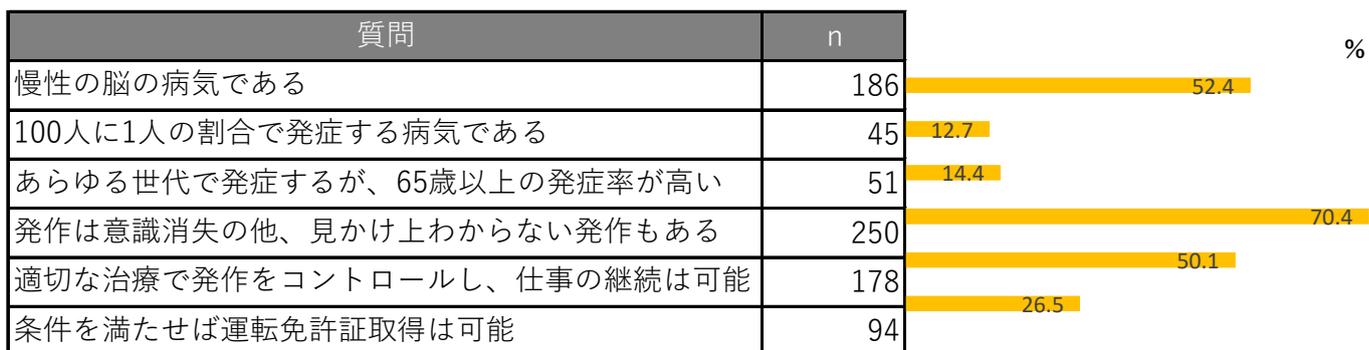
- ・誰でも起こりうる障害ということなので、様々な方法で情報発信してください。 18人
- ・高次脳機能障害支援センターの周知がもう少し多いと良い。 6人
- ・必要な時、どこに相談すればいいのかを明確にしてほしい。 6人
- ・アンケート調査の機会に情報が得られてよかった。 4人
- ・高次脳機能障害者の支援対策の充実は必要と感じる。 3人
- ・身近な地域でも相談ができるように各地域への支援センターの整備を望む。 3人

等

## ②てんかん支援策関係

問6 てんかんについて知っていること回答した人数（MA）

⇒ 発症率や高齢者の発生率が高い疾患であるという点についてあまり理解されていなかった。



問7 自身も含め身近にてんかんの方がいらっしゃいますか（SA）

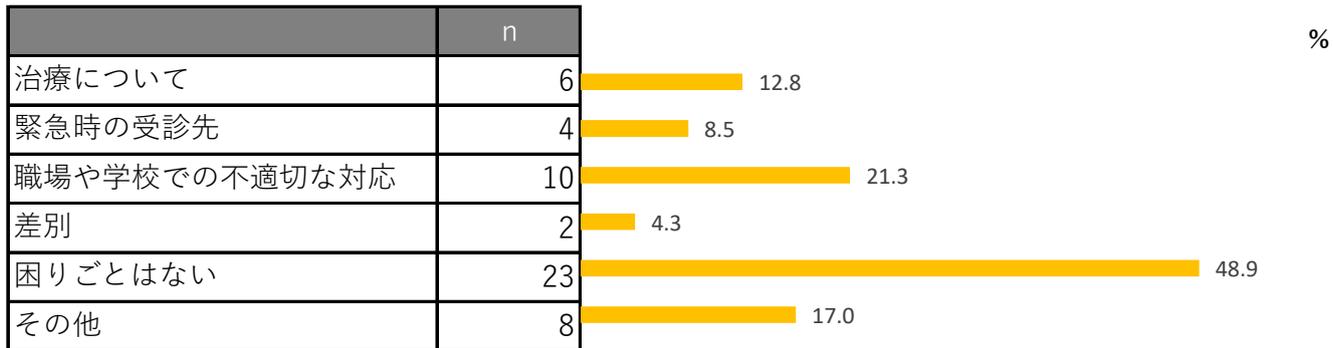
⇒ 1割以上が身近に罹患者がいると回答している。



問8 気になったり困ったりしていることはありますか (MA)

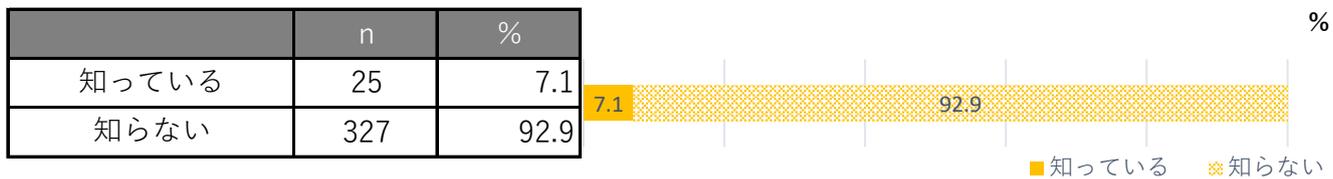
\*問7で「いる」と回答した方への質問

⇒ 半数近くが困り事はないと回答している。一方で、職場や学校など家庭以外の場での不適切な対応に困り感を持つ関係者が2割以上いる。



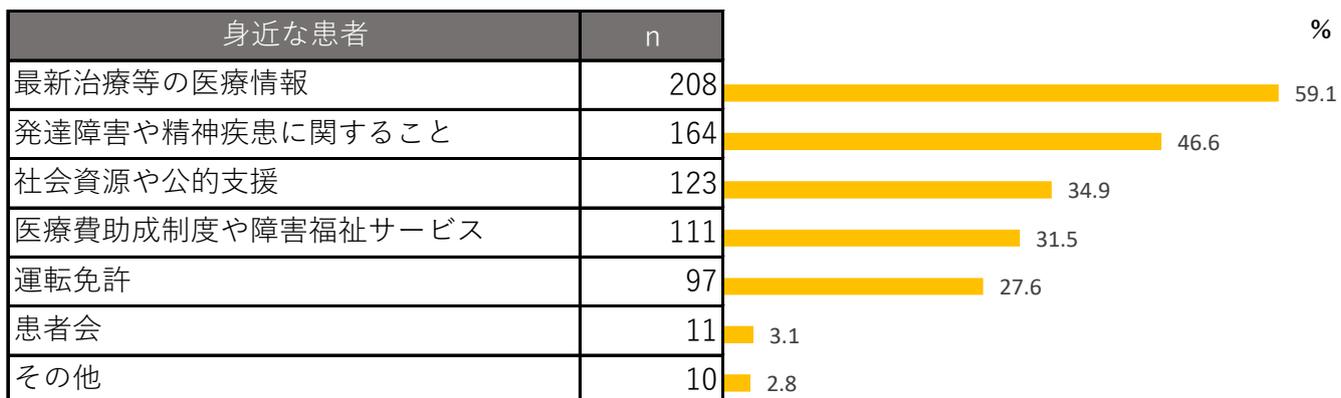
問9 山梨大学附属病院がてんかん支援拠点病院であること (SA)

⇒ 9割以上の方が、支援拠点病院を知らないと回答している。



問10 てんかんに関する情報で知りたいこと、聴きたいこと (MA)

⇒ 治療、疾患に関する情報を求める一方で、社会福祉制度やサービスについては比較して少ない。



問11 てんかん対策に関する自由意見

⇒ 身近な疾患であることへの周知を求めることが多い。また、患者の運転に関する不安を心配する声も少なくなかった。

- ・誰でもなる可能性がある以上、ポスター掲示等サービスの情報の周知を徹底してほしい。 16人
- ・運転中の意識消失発作への心配 6人
- ・支援拠点病院の周知の必要性 2人
- ・発作時の対応や職場での配慮事項を知りたい 2人

等